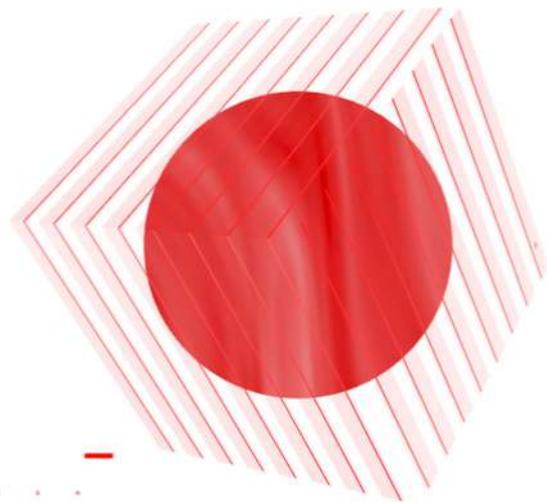


2024年10月期第3四半期 決算説明会資料

2024年9月17日



エグゼクティブサマリー

- 1 2024年10月期第3四半期決算概要
- 2 事業ハイライト
- 3 Web3成長戦略と全社戦略 ～我々は何を目指しているか～
- 4 Zaif事業報告 および Turingum事業報告

全 体 感

営業損失1,740百万円のうち

- ・暗号資産の評価減によるウミ出しによる影響が△1,132百万円（次ページにて詳細解説）
 - ・2023年11月よりZaifを中心とする3社の連結PL取り込みによる影響△364百万円
- キャッシュポジションは依然安定し、Zaifの経営改革も順調に進捗

セグメント業況

① ブロックチェーンサービス

- ・Zaifは経営統合後6ヶ月で3年ぶりの単月黒字化を連続で達成
営業赤字は前期比、およびM&A時の予測値よりも大幅縮減し改善が進む

② システムエンジニアリング

- ・SES事業の稼働率低下（対前年同四半期比）に伴う減収
- ・NOコードソリューションによるDX支援サービスを推進中

③ インキュベーション

- ・保有する暗号資産のうち、活発な市場である暗号資産は151百万円の評価益を計上
一方、活発ではない暗号資産は保守的な評価減を行い損失1,132百万円を計上

業 績 予 測

業績が暗号資産市況の影響を受けやすい状況であるが、

- ① 暗号資産交換業（Zaif）が市況に左右されない底堅い経営基盤を構築し、
 - ② トークンビジネス（チューリングム）のアップサイド収益
- これらの要素の合理的な予測が可能になり次第速やかに開示を予定

活発な市場が存在しない 暗号資産 評価減の状況

	評価減金額	
Q1	△255 百万円	上半期累計 △1,132 百万円
Q2	△877 百万円	
Q3	△0 百万円	

暗号資産の評価方法について

- 当社グループが保有する暗号資産は、活発な市場が存在しないものに関して、決算期末日の市場時価に基づく移動平均法による原価法（簿価切り下げによる評価方法）をこれまで保守的に採用していた。
- Q2決算においては、会計監査人との協議を通じ、上記の原価法よりさらに保守的評価を加味し、**市場時価に準拠せずに備忘価格で評価する特例的な処理**を実施。当該評価減は、「資金決済法における仮想通貨の会計処理等に関する当面の取り扱い」（実務対応報告38号2022年7月1日）を根拠とする処理である。
- なお、この度の評価対象となった暗号資産は、今後の市場取引等を通じて売却された場合、備忘価格をのぞいて売上原価が一切生じず全て売上および利益に貢献する重要な収益資産となる。

1. Zaifの経営改革 単月黒字を継続し通期黒字化を目指す
2. Zaifでの新規上場コインの取扱い数増加を狙い収益貢献
3. トークンプロジェクトのアップセル&トークン上場
4. ノーコード開発によるDX推進領域への挑戦



5. Web3の垂直統合ビジネスに発行体機能のセットアップを予定

01

2024年10月期 第3四半期決算概要

当社グループは、事業戦略上、横断的なクライアントやパートナーとの連携を深め、新たなパイプラインや協業体制を開拓するうえで、様々な種類の暗号資産を保有しております。

これらの暗号資産の評価をより経営成績に適切に反映させるため、当第2四半期連結会計期間より、**活発な市場が存在しない暗号資産の評価損**に関して下記の通り業績管理方針の変更を行いました。

Q1まで

Q2以降

対象となる
暗号資産

活発な市場のない暗号資産

評価方法

移動平均法による原価法
(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

表示区分

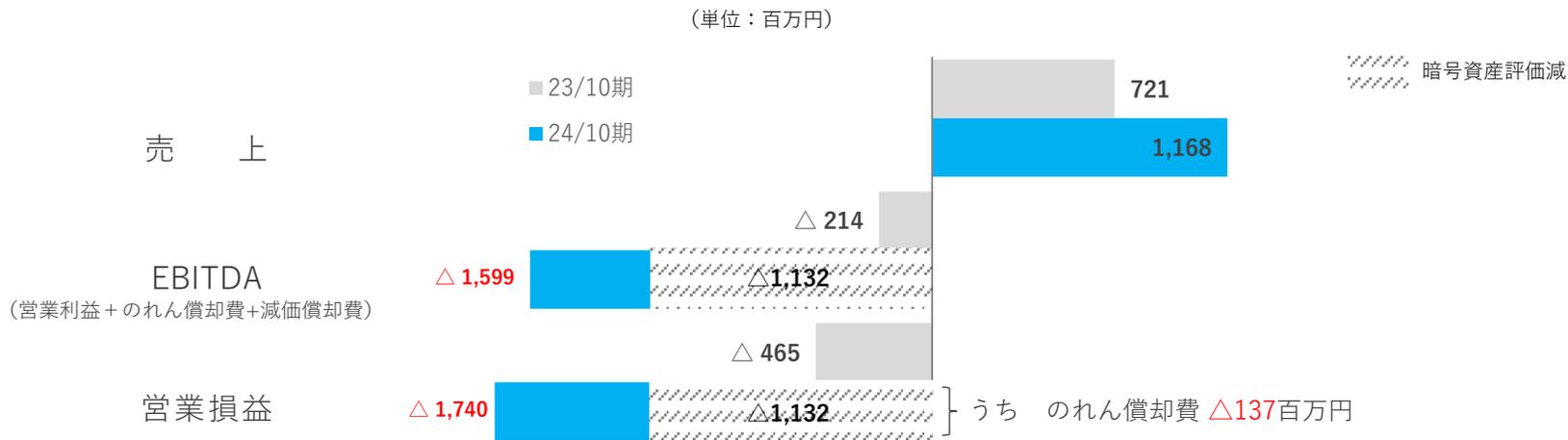
売上高の
マイナス

売上原価

- ・ 暗号資産評価損が売上原価以下の段階利益に影響
- ・ 今回Q1からZaif連結取り込み開始による影響

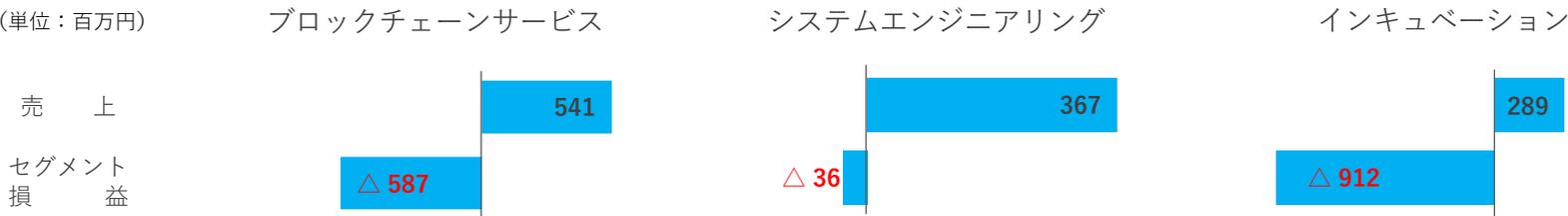
(百万円)	(参考) 2023年10月期 第3四半期	2024年10月期 第3四半期	増減	
			増減額	%
売上高	721	① ブロックチェーン事業 +415百万円 インキュベーション事業 +99百万円 (Zaif連結効果) 1,168	447	162
EBITDA	△214	② 暗号資産評価損 △891百万円 Zaif連結 △364百万円 △1,599	△1,384	—
営業利益	△465	③ のれん償却 +111百万円 △1,740	△1,275	—
経常利益	△500	④ 投資事業組合運用損 △119百万円 △1,875	△1,375	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△147	△1,912	△1,765	—

- ・ブロックチェーンは、現在経営改革中であるZaifの連結取り込みによる影響
- ・インキュベーションは、暗号資産評価減による影響



セグメント損益の状況

(単位：百万円)



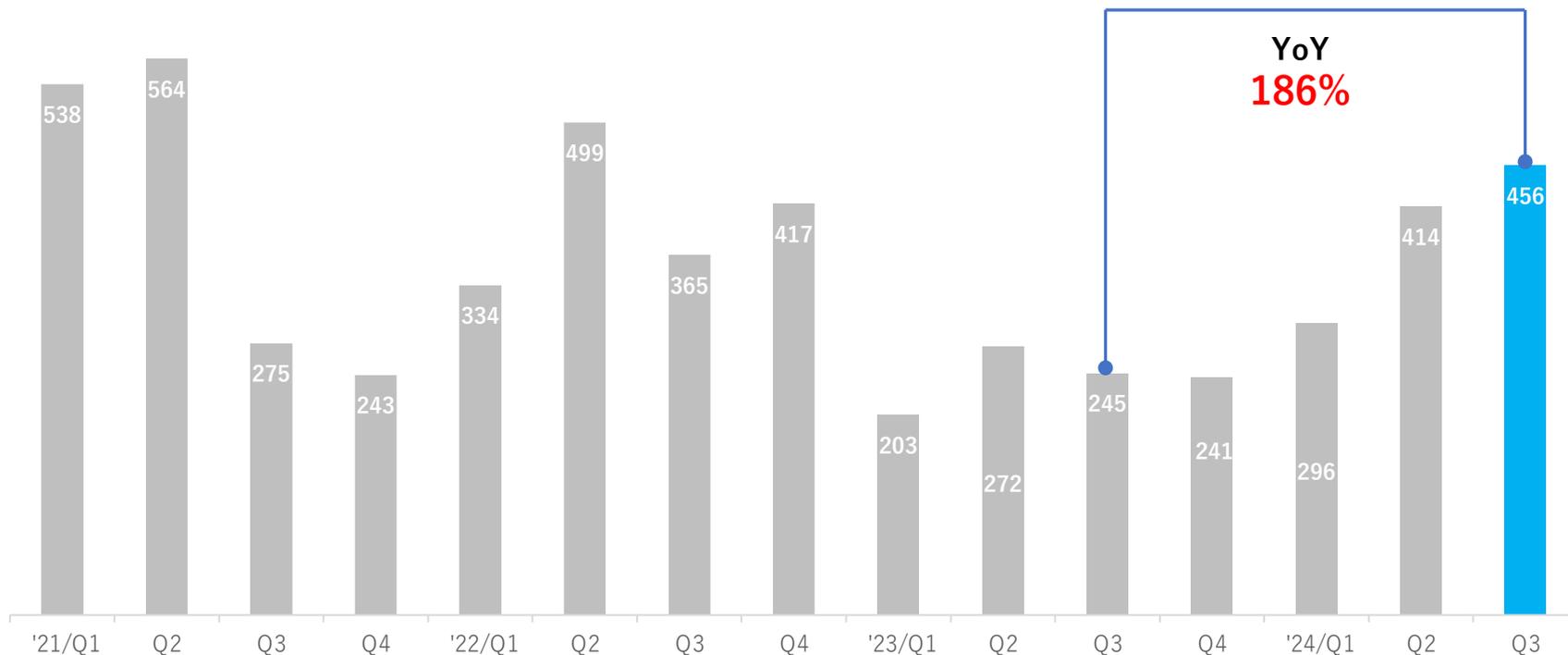
※ セグメント別ののれん償却費を含むセグメント損益を表示しております。

※ セグメント売上はセグメント間の内部売上を含めた表記としており、その合計値は連結売上数値と一致していません。

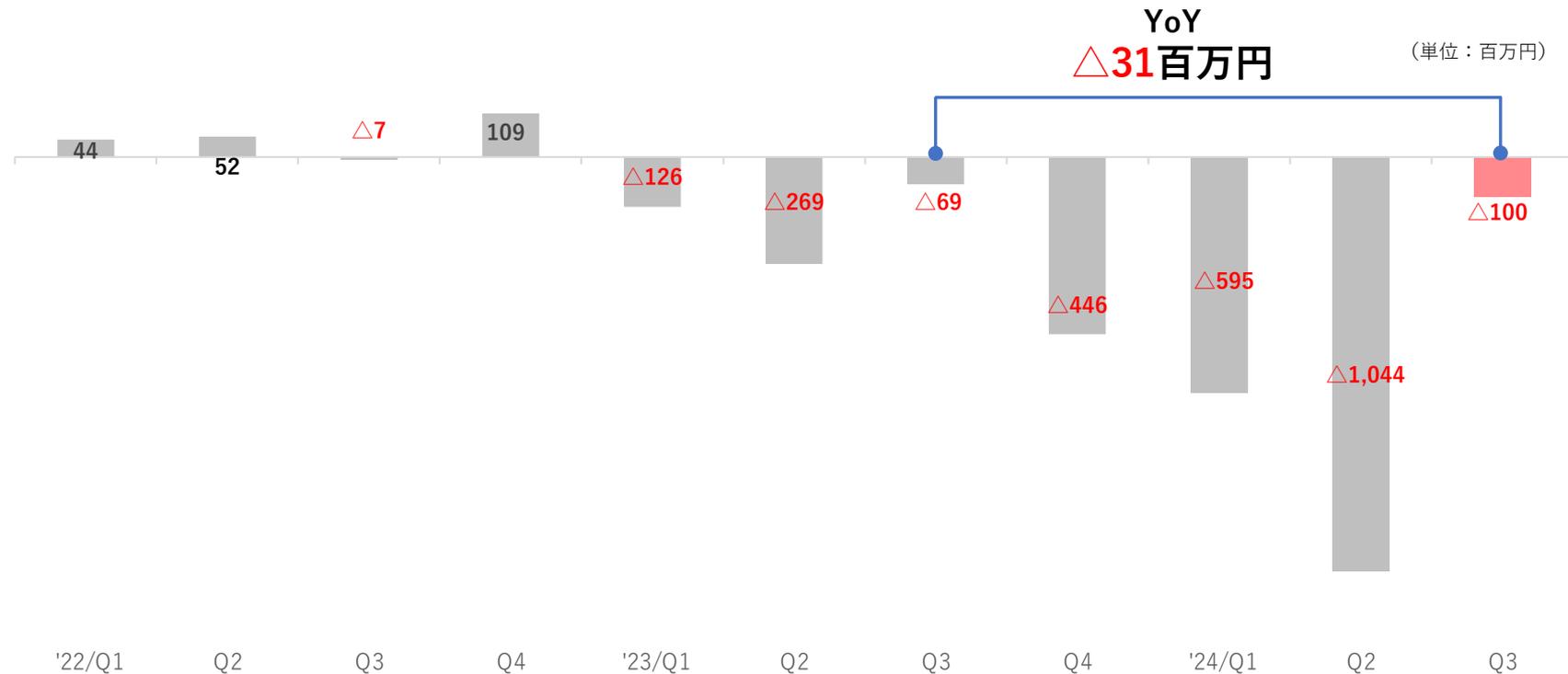
売上高の推移

- ・暗号資産評価損の影響を排除すると、売上高は前年同期比で186%増
- ・Zaifの改善効果は連結売上に貢献したが、トークンプロジェクト支援の収益化が期ズレ

(単位：百万円)

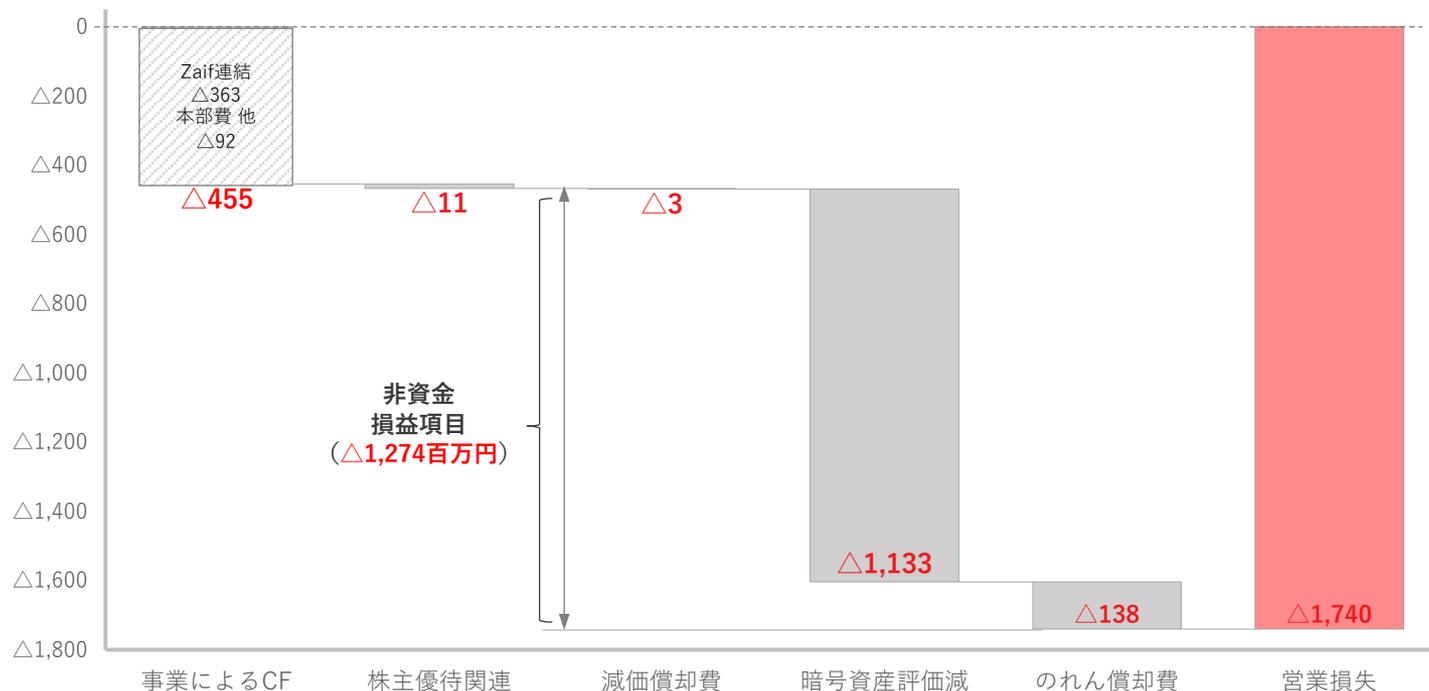


※2021年10月期および2022年10月期は表示区分変更前の決算数値で表示しております。(暗号資産評価損の影響が従来の処理である売上のマイナスとして表示)



- ・営業損失百万円のうち1,274百万円相当が評価生損失（非資金損益項目）であり
会計上の評価による損失計上（キャッシュアウト発生無）

(単位：百万円)



※ 「事業によるCF」とは、事業活動から得られた実態的なキャッシュフローを集計したものとなります。

- ・前期末より暗号資産交換業を運営する株式会社Zaifを企業結合し、BSが大きく変容
- ・顧客預かり暗号資産の増加により流動資産が増加

(単位：百万円)

	2023年10月期	2024年10月期 第3四半期
資産の部		
流動資産	59,562	103,008
現金及び預金	1,528	1,863
預託金	6,220	7,935
自己保有暗号資産	1,506	549
利用者暗号資産	49,721	91,996
固定資産	2,098	2,017
有形固定資産	64	65
無形固定資産	854	741
投資その他の資産	1,179	1,211
資産合計	61,661	105,026

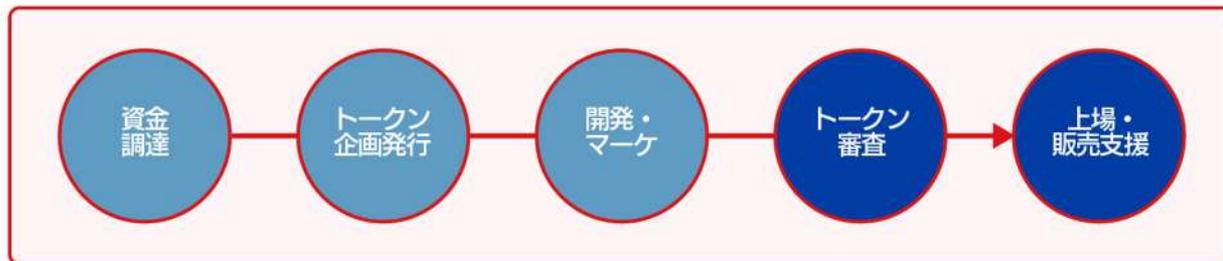
	2023年10月期	2024年10月期 第3四半期
負債の部		
流動負債	56,397	100,576
短期借入金	30	30
1年内返済長期借入金	55	40
預り金	6,136	7,892
預り暗号資産	49,721	91,996
固定負債	1,233	1,666
長期借入金	402	1,302
負債合計	57,630	102,243
純資産の部		
株主資本等	3,965	2,731
資本金	50	389
資本剰余金	4,855	5,194
利益剰余金	△926	△2,839
自己株式	△12	△12
純資産	4,030	2,782
負債純資産合計	61,661	105,026

02

事業ハイライト

ブロックチェーンサービス

The Value Chain of Tokenomics トークノミクスのバリューチェーン



事業企画・開発といったトークン発行前の段階におけるサービス拡充は順調に進み
未来のトークンプロジェクトのレコードが積み上がっている

新規注力領域

潜在トークンプロジェクトへのサービス提供

Web3事業企画
サポート

案件：10件（未公開案件含む）
業種：大手ゲーム会社、商社等
種別：GameFi、DAO、ステーブルコイン

Web3事業に参入しようとする企業向けのビジネス企画コンサルティング。サービスのコンセプトを定義し、プロダクト設計と各種ビジネス要件・スケジュールを策定する。

ブロックチェーン
サービス開発

案件：5件（未公開案件含む）
業種：大手インフラ会社、通信会社等
種別：ステーキング、レイヤー1ブロックチェーン

大手上場企業を中心としたWeb3事業におけるブロックチェーンプロダクト設計・開発。事業企画内容をもとに要件定義・設計を行い、スマートコントラクト開発を行う。

トークンプロジェクト拡大

トークンプロジェクト

案件：7件（未公開案件含む）
業種：大手ゲーム会社
種別：GameFi、X to Earn、DAO、スポーツ

トークン発行するプロジェクトのエコシステム構築を支援。トークンエコノミクスを設計し、国内外の取引所上場や資金調達を推進することでトークン価値を最大化する。

・ 2023年11月より連結グループ化。課題は「**事業継続性の向上**」

・ 前期比較で赤字額の半減に成功。M&A当初想定より経営改革が進捗中

・ 直近では**単月黒字を連続して達成**。来期は通期黒字化へ

—————▶ Zaif事業報告にて詳細をご報告



Turingum

- ・当社が発行済みのトークンを譲渡し、クライアントのWeb3ビジネスに活用していただくスキーム
- ・トークンプロジェクト新規参入のハードルを引き下げWeb3ビジネスに挑戦しやすい環境を提供する



- ・Zaif自らが新規発行・上場を目指す、暗号資産の成長性と積立投資の強みを組み合わせた「資産形成トークン」
- ・ステーキング報酬、コイン積立手数料の優遇、新規上場コインのエアドロップなどにより、暗号資産での長期的な資産形成を支援

Token10 トークン10



Turingum
トークン10
構想スタート

- クシムグループで発行済みのトークンを活用
- 資金調達がスムーズ・スピーディ
- Web3ビジネス参入のハードルを引き下げ

Asset Formation Web3を活用した資産形成 Utilizing Web3

Zaif

資産形成トークン

発行プロジェクト始動
2025年下半年 Zaif上場予定

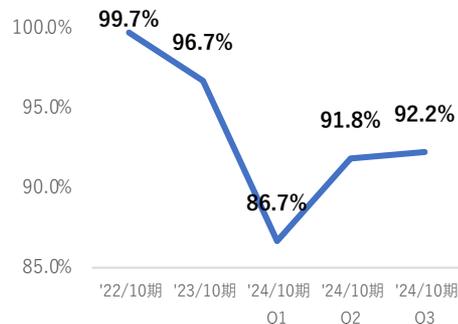
- ステーキング報酬の獲得
- コイン積立の手数料の割引
- 新たに上場する暗号資産のエアドロップ

02-2

システムエンジニアリング

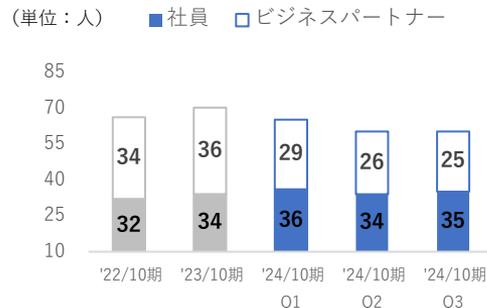
- ・エンジニア稼働率は回復傾向だが、完全回復までは至らず
- ・「DX支援サービス」は案件レコードを案件化させることが課題

エンジニア稼働率



- ・強みとしているWEB系開発において継続的に受注。
- ・稼働率の回復は微増。
- ・内部体制強化に伴い案件獲得の母数は増加傾向。

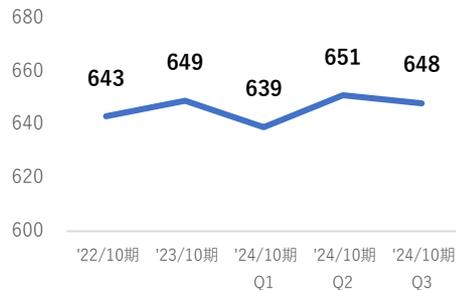
エンジニア数



- ・中途採用者数が増えているが、一定数の社員退職も発生。
- ・ビジネスパートナーは継続してコアパートナーに絞り込み長期案件参画。

一人当たり売上

(単位：千円/月)



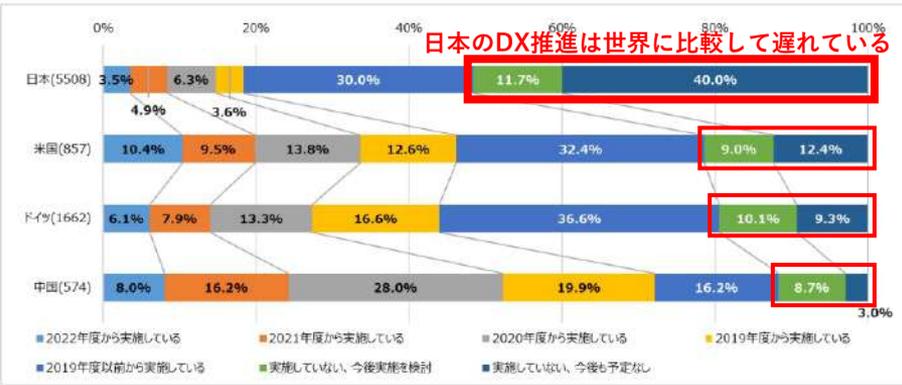
- ・内部体制強化中におけるエンジニアの非稼働や月内途中参画メンバーの日割り計算によって一人当たりの売上は低下。

DX支援サービス案件レコードと対応エンジニア数



- ・案件レコードと共に対応可能エンジニアを増加。
- ・案件レコードの積み上げから案件化に結びつけることが課題。

図表 3-146 デジタル化 (DX) の取組状況 (各国比較)



※出典/総務省 (2023) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

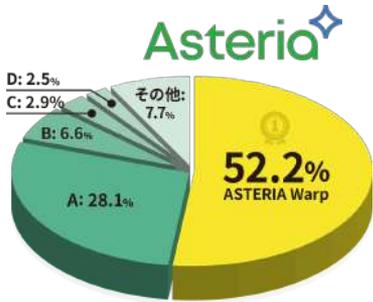
図表 3-147 デジタル化 (DX) の取組状況 (日本における企業規模比較)



※出典/総務省 (2023) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」



日本国内でのDX推進に対する市場があると判断。



テクノ・システム・リサーチ「2023年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」で17年連続シェアNo.1を獲得



※出典/アステリア株式会社 「<https://www.asteria.com/jp/warp/>」



×

<p>対応年数</p> <p>10年超</p> <p>2023年6月～テクニカルパートナー</p>	<p>年間プロジェクト数</p> <p>40件</p> <p>※2023年実績</p>	<p>エンジニア数</p> <p>20名</p> <p>積極採用中</p>
--	--	--

03

Web3 成長戦略と全社戦略

1. ITやブロックチェーン技術に基づくWeb3やブロックチェーンの開発支援
2. クライアントのWeb3事業を推進支援するコンサルティング
3. トークンのバリューチェーンを一貫するワンストップソリューションの提供

ブロックチェーン技術の社会実装とその普及
トークンエコノミーの進化と暗号資産市場の健全な成長をリード

1. 主要事業会社の各戦略を実現し、不安定な連結業績から脱却
2. アップサイドを狙えるケイパビリティを存分に活かす

	過去	現在	未来	意義	IR・市場評価
	4期連続赤字 最大赤字△18億円	2024年Q3 赤字△3億円 赤字の大幅縮減を実現	積み上げによる 2024年下期黒字 2025年通期黒字	黒字経営の交換業者 市況に左右されない経営	①不安定な連結 業績からの脱却
	トークノミクス 年1~2本 ブロックチェーン研究	トークノミクス 年4~5本 Web3事業開発コンサル ブロックチェーン開発	底堅いストック収益 + トークノミクスの アップサイド	ダウンサイドリスクのない 高収益率ビジネスモデル	②強固な経営基盤
	特色の薄いSES 売上5~6億円	特色の薄いSES 売上5~6億円 DXソリューション	特色を有するSES 売上5~6億円 DX売上 + α	市場差別化を有する DXソリューションSI企業	③アップサイドの ケイパビリティ
			M&Aによる アップサイド		

04

Zaif事業報告 Turingum事業報告

別紙にて説明

- ① **保有暗号資産のウミ出しを行い決別**
→ この先収益化の未来
- ② **Zaifは単月黒字化継続 経営改革は引き続き好調**
→ 市況に左右されない積み上げの黒字体質に向けて成果を実現
- ③ **トークンプロジェクトのアップサイド収益を引き続き狙う**
→ 毎四半期に1～2銘柄の新規上場取り扱い

連結業績V字回復に向けた下記の取り組みを期中に実施

1. **戦略資産の棚卸とリストラクチャー**
2. **Web3事業の収益力のテコ入れ**

WebX 2024に出展

- 8/28-29開催のWebX 2024にタイトルスポンサーとして出展
- Zaif・Turingumがブースを共同出展し、3,000名以上の方が訪問
- クシムグループの認知度向上

Zaif・Turingumブース出展の様子



キーノート登壇



gallusys様と
トークセッション



NTT Digital様と
共同サイドイベント





Küshim

05

Appendix

会社名 株式会社クシム

代表者 代表取締役会長 中川博貴
代表取締役社長 伊藤大介

設立 1997年6月12日

資本金 3億8,923万円（2024年7月現在）

社員数 連結82名（2023年10月現在）

上場市場 東証スタンダード市場（2345）

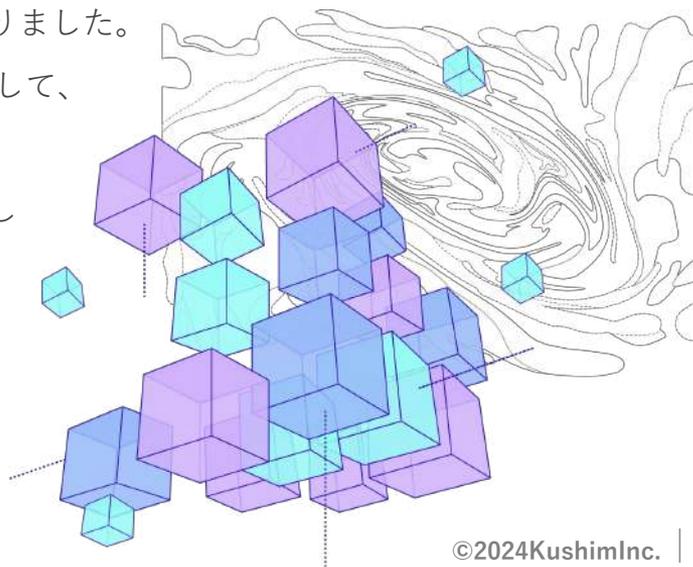
本社 東京都港区南青山6-7-2

事業内容
※子会社事業含む

ブロックチェーン技術のR&Dおよびシステム開発事業
暗号資産交換業
システムエンジニアリング事業
投融資事業

ブロックチェーン技術の社会実装 を推進しその普及に貢献する

わたしたちは、これまでブロックチェーンの技術に真摯に取り組んでまいりました。
2022年より更なる高みを目指し、ブロックチェーンサービスカンパニーとして、
社会から必要される企業に生まれ変わりました。
ブロックチェーン技術を活用したサービス・プロダクトの社会実装を推進し
その普及に貢献することをMissionに掲げております。



ブロックチェーン・Web3に特化したプロジェクト支援サービスを提供

ビジネス企画からシステム開発、プロジェクト運営まで一気通貫でサポート

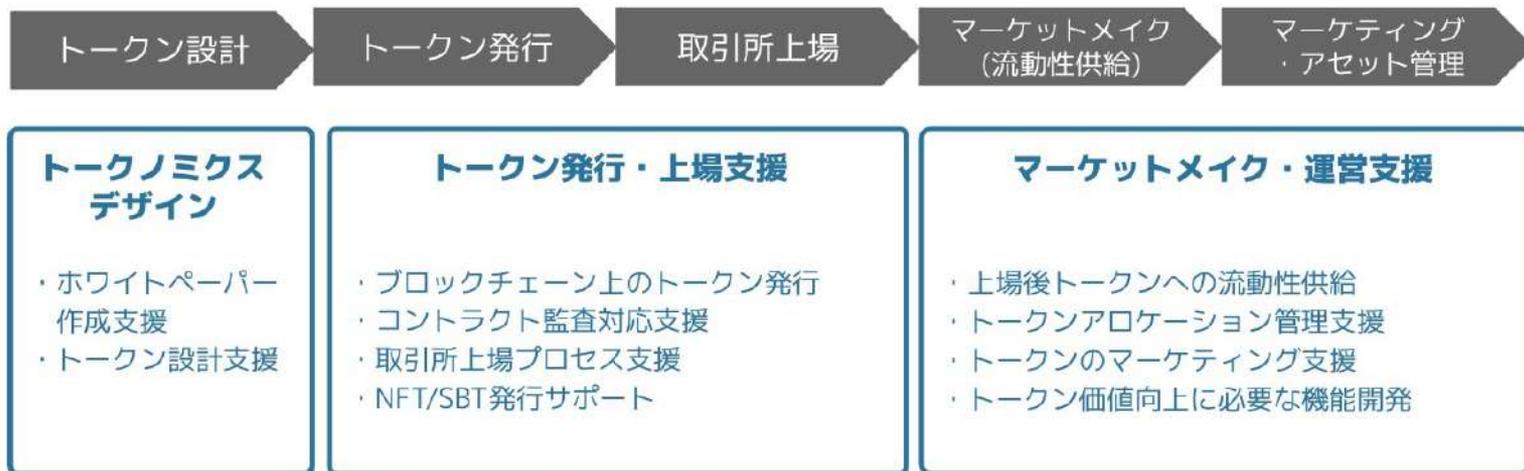


主なサービス内容

- トークノミクス設計などの企画
- トークン上場、マーケットメイク支援
- トークンにかかるマーケティング支援
- スマートコントラクト開発
- NFT/SBTビジネス企画・システム開発
- NFTマーケット等の取引システム開発

トークンプロジェクトのフロー

- ・ トークンの企画段階から管理・運営まで総合的にサポートいたします
- ・ PJのフェーズ、ニーズに合わせた柔軟なサポートプランの設計も可能です



暗号資産交換所 ZaiF の運営

ZaiF

かんたん売買 (販売所)

Orderbook trading

コイン積立

サービス

ログイン

無料会員登録



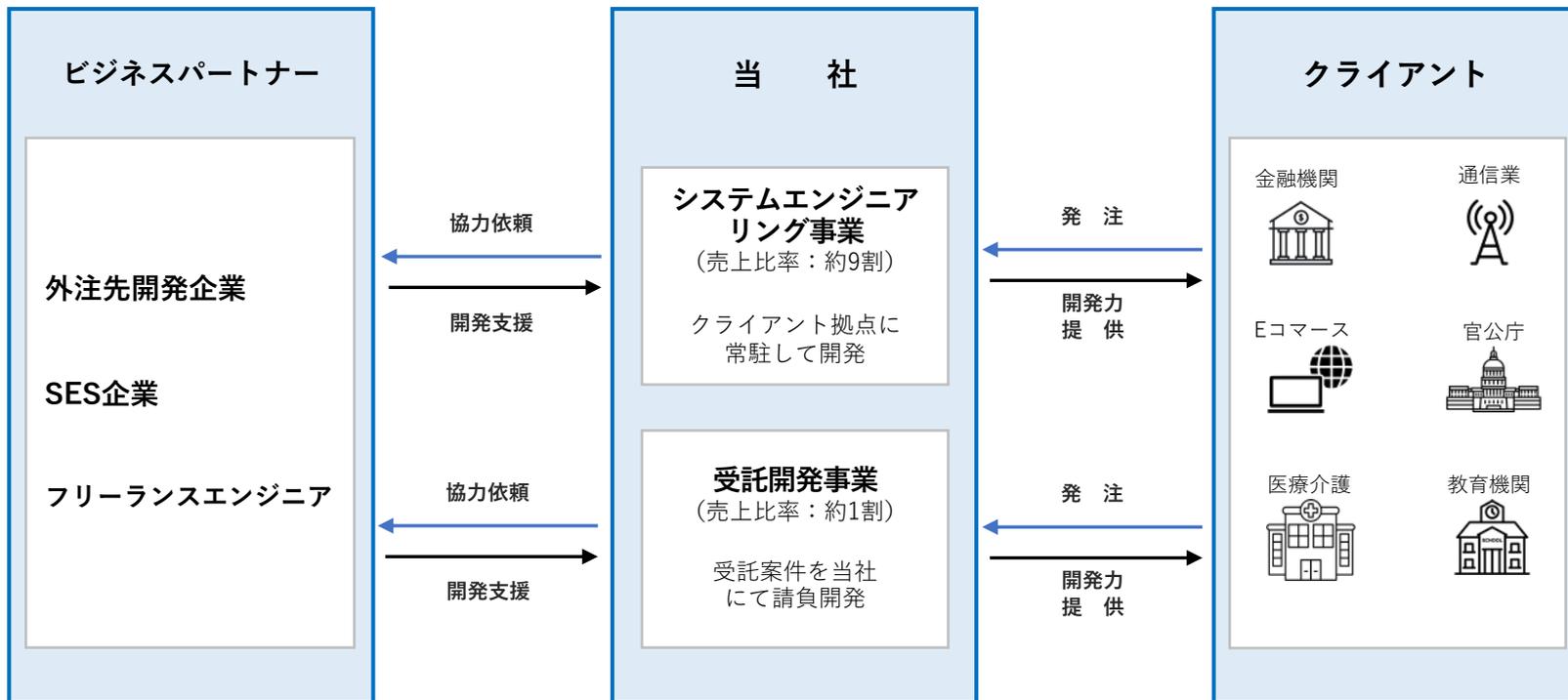


いつでも、どこでも。
暗号資産取引を
はじめるならZaiF

少額からでも購入できるので、投資を始めやすい！
暗号資産投資をきっかけに大人の資産形成をはじめませんか？

さっそくはじめる

 BTC/JPY 10,470,000 ↑ 2.04%	 ETH/JPY 587,940 ↑ 1.36%	 MATIC/JPY 178.1157 ↓ 0.69%	 XYM/JPY 5.125 ↑ 0.31%	 XEM/JPY 8.500 ↑ 5.42%	 KLAY/JPY 42.9528 ↓ 0.34%	 MBX/JPY 140.2763 ↓ 0.15%	 MV/JPY 6.1248 ↓ 3.04%	 ROND/JPY 0.5350 ↑ 6.78%
--	---	--	---	---	--	--	---	---



投融資事業

複数の暗号資産および有価証券に投資を実行
BTC、ETH等、アルトコイン
その他

**M&A
資本業務提携**

M & A仲介企業やデータベースを用いて候補となる企業のソーシング

対象企業：

- ・ SI /SESおよび高度ITエンジニアリング
- ・ ブロックチェーン領域の企業

本資料の取り扱いについて

本書は、株式会社クシムに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。

これらの記述のためには一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述、または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、株式会社クシムに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

2024.09期 3Q事業報告

2024年9月17日

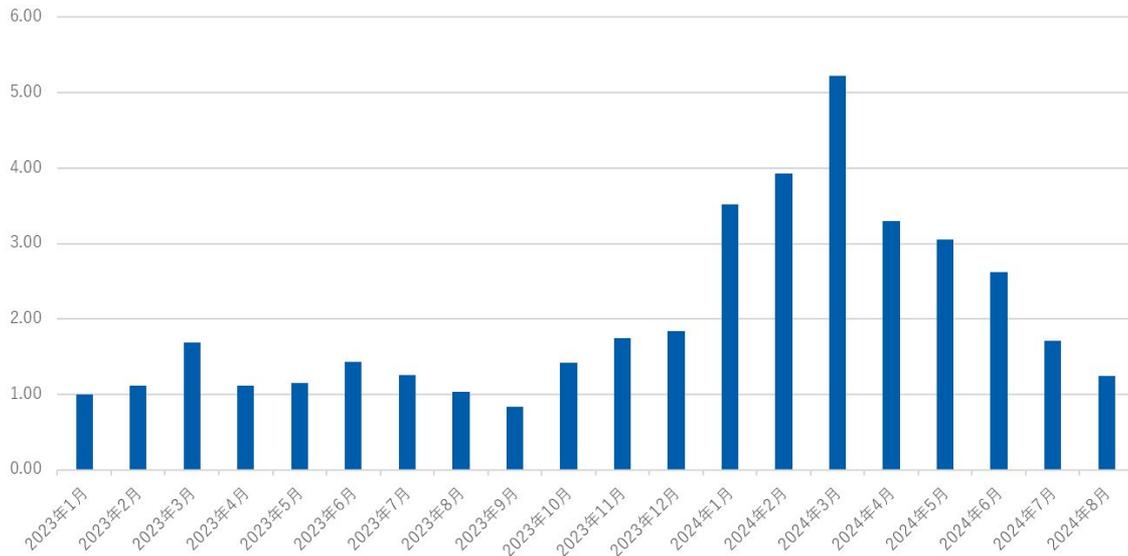
The logo for Zaif, featuring a stylized blue 'Z' followed by the lowercase letters 'aif' in a serif font.

事業継続性の向上

- グループシナジーの活用
- システムコストの圧縮
- 市況に左右されにくい安定収益源の創出

主要KPIの推移

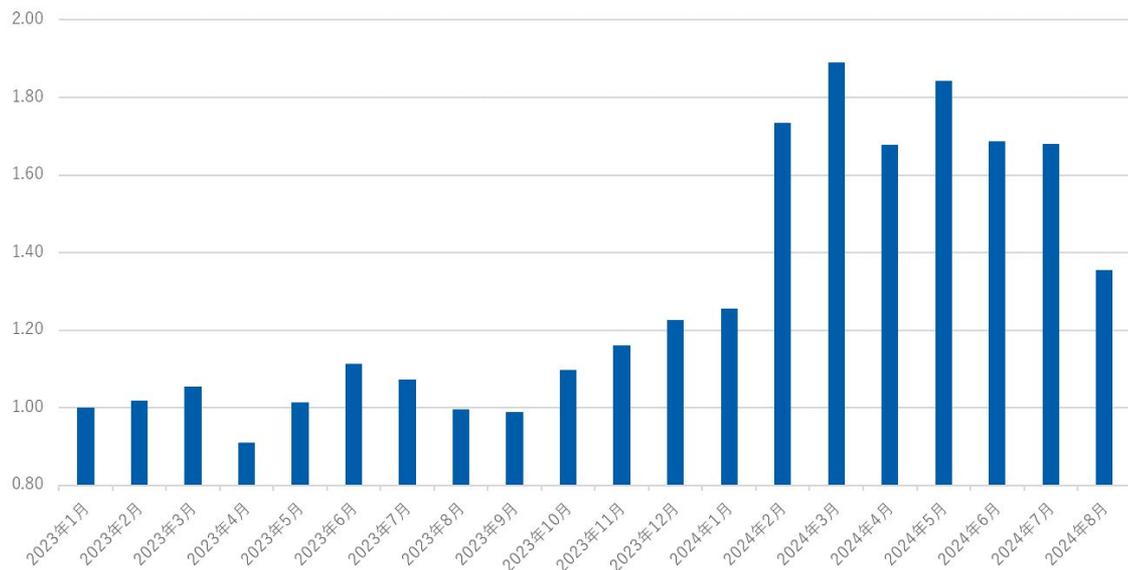
Zaif 取引高の推移



※縦軸は2023年1月の取引高を1.00とした場合の指数

- 2024年1月～5月は現物BTC・ETHのETF承認、およびETFによる資金流入を背景に暗号資産全体が好況
- 6月以降は暗号資産のボラティリティは落ち着き、取引高も連動する形で推移
- 目下大きな材料は米国の大統領選となっており、それまでは堅調に推移する見通しか

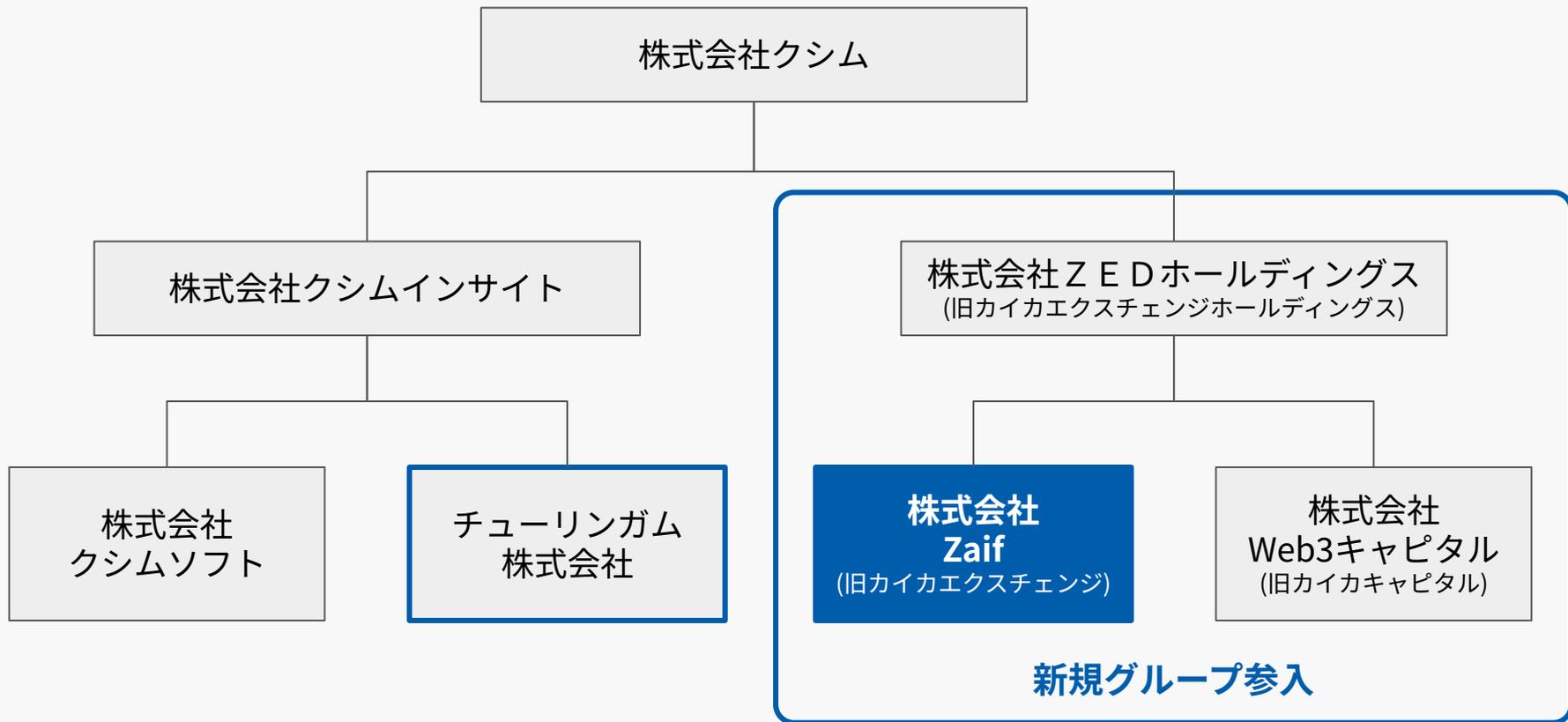
Zaif 預かり資産の推移



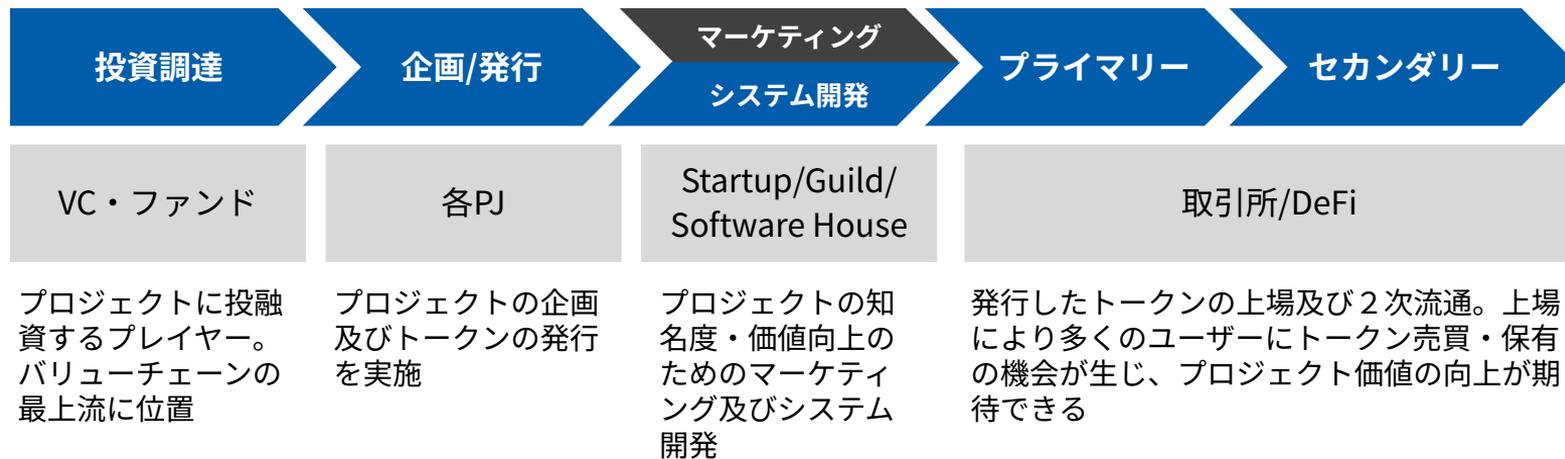
※縦軸は2023年1月の預かり資産を1.00とした場合の指数

- 暗号資産全体の好況により、**顧客預かり資産は好調に推移**
- 8月は暗号資産の価格下落によって評価額も連動して減少
- ただし、ステーキングサービスの対象であり重要銘柄であるETH, XYMについて保有数量ベースでは増加傾向

グループシナジーの活用



Web3バリューチェーンにおける収益性の最大化を目指す



3Qは2銘柄を新規上場。いずれも国内初上場案件

Skeb Coin

The graphic features the Skeb Coin logo (a green diamond with 'S' and 'SKEB' above it) and the text 'Skeb Coin'. Below this, it says 'Zaif SKEB上場1週間' and '取引件数 30,000件を突破'. A green box at the bottom contains the text 'SKEB上場を記念してキャンペーン開催中!'. To the right is an illustration of a young girl with brown hair in pigtails, wearing a blue and white sailor-style shirt, holding a large gold coin with the Skeb Coin logo.

- 従前よりZaifにて取扱いを計画していた「スケブコイン (Skeb Coin)」について、**5月22日に新規上場を実現**
- 当プロジェクトはチューリングラムも開発およびアドバイザー業務で参画

BORA

The graphic features the BORA logo (a colorful cube) and the text 'BORA'. Above the logo, it says '上場決定!'. Below the logo, a purple bar contains the text '2024年6月26日上場' and '18時 Orderbook trading 取扱開始'. The Zaif logo is at the bottom.

- BORAとは、韓国の手ゲームパブリッシャーであるKakaogamesがサポートするグローバルなGameFiプラットフォーム
- **BORAの取扱いは国内初。6月26日に新規上場を実現**

システムコストの圧縮

課題

- 陳腐化・老朽化が進み、技術的負債が蓄積されている状況
- インフラ費用およびシステム改修費用が全体費用の大きな割合を占めている



成果

- 主にAWSの余剰リソースや無駄を整理すること、また一部アーキテクチャの刷新や各種サービスの契約の見直しなどで月額1,700万円以上を削減
- コスト全体の削減実績は前年同期比で約50%に上る
- インフラコストの削減は重点課題として継続的に実施していく

安定収益源の創出

証券業界がたどった歴史：手数料ビジネスから預り資産ビジネスへ

- 証券各社は元々手数料で稼いでいたため、日経平均連動型ビジネスとも言われていた
- ただし2010年前後から手数料モデルは限界を迎えていく
 - リーマンショックによる取引高の伸び悩み
 - スマホ証券モデル（手数料0円による現役世代の顧客獲得）の台頭
- 顧客預り資産を増やして運用しそこから手数料を徴収する、預かり資産を活用したビジネスに移行していく

暗号資産業界も似た歴史をたどっている（ように見える）

- 半減期後半年～1年以内にバブルが発生
 - 2017年末～2018年前半
 - 2020年末～2021年
 - 2024年末～2026年（予想）
- 次のバブル後も必ず嵐がくる
- マーケットに左右されにくい収益源の創出が重要になる

4月1日よりETH、7月16日よりXYMのステーキングサービスを開始

ステーキングとは

- ステーキングとは、Proof of Stakeという仕組みを採用するブロックチェーンにおいて、ブロックの生成・承認に参加した対価として報酬を得ることが出来る仕組み
- この際得られる報酬は保有する数量により決まり、多く保有するほど報酬量も多くなる

サービス概要

- 4月1日よりETH、7月16日よりXYMのステーキングサービスを開始
- ステーキングにより得られる報酬の一部を顧客に還元することで、Web3ならではの新しい資産形成の体験を提供する

収益的効果

- ステーキングの報酬は保有する暗号資産の数量に比例
- 預かり資産を活かした事業として、取引手数料と比較して安定的な収益を生んでいる状況にあり、安定的な黒字化に向けて大きく貢献



資産形成トークンプロジェクト



Zaif

資産形成トークン

(仮称)

発行プロジェクト始動

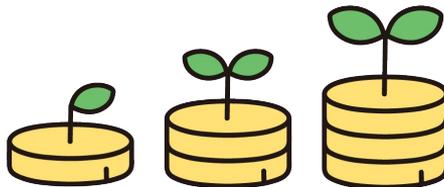
持てば持つほどお得！暗号資産による資産形成をガッチリサポート！

ステーキング報酬の優遇



弊社の提供するステーキングサービスの**年利が通常よりも増加**するなど、よりお得にステーキングサービスを利用することが可能です
また資産形成トークン自体のステーキングプログラムも実装予定

積立手数料の優遇



Zaifコイン積立を利用するユーザーには取引手数料の割引を提供し、長期的な資産形成をさらにサポート

上場通貨のエアドロップ



Zaifで新たに上場する暗号資産を資産形成トークンの保有者にエアドロップすることを検討しています。これにより、さらなる資産の増加が期待できます

2025年下半期

Zaif上場予定

まとめ

市況好転とコスト圧縮、安定収益源の獲得により収益状況は大幅に改善 3Qは2か月連続で単月黒字を達成

主要KPIの状況

- 2024年1月～5月は暗号資産全体が好況
- 6月以降は暗号資産のボラティリティは落ち着き、取引高も連動する形で推移
- 目下大きな材料は米国の大統領選となっており、それまでは堅調に推移する見通しか

グループシナジーの活用

- グループ企業であるチューリングと連携したWeb3バリューチェーンの実現
- **Skeb Coinが5月22日上場、BORAが6月26日に国内初上場を果たす**
- 引き続き連携による新規上場を目指していく

インフラ刷新によるコスト圧縮

- 昨年よりサービス開始当初から蓄積された技術負債の解消および無駄の排除に着手
- **コスト全体で前年同期比約50%の削減を実現**
- インフラをターゲットとして、継続的にコスト圧縮を進めていく

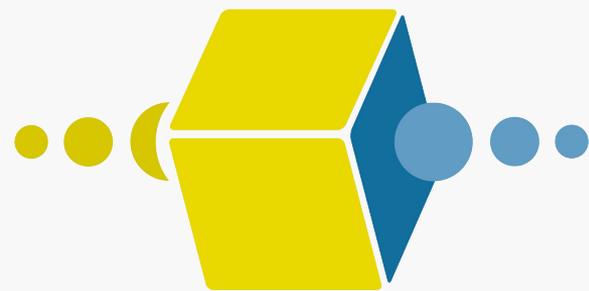
安定収益の創出

- 市場のボラティリティに左右されにくい安定収益の創出を目指す
- **4月1日よりETH、7月16日よりXYMのステーキングサービスを開始**
- 対象通貨の預かり資産の伸長と、ステーキングサービスの拡充を進めていく

Thank You

2024年10月期第3四半期 Turingum事業報告

2024年9月17日



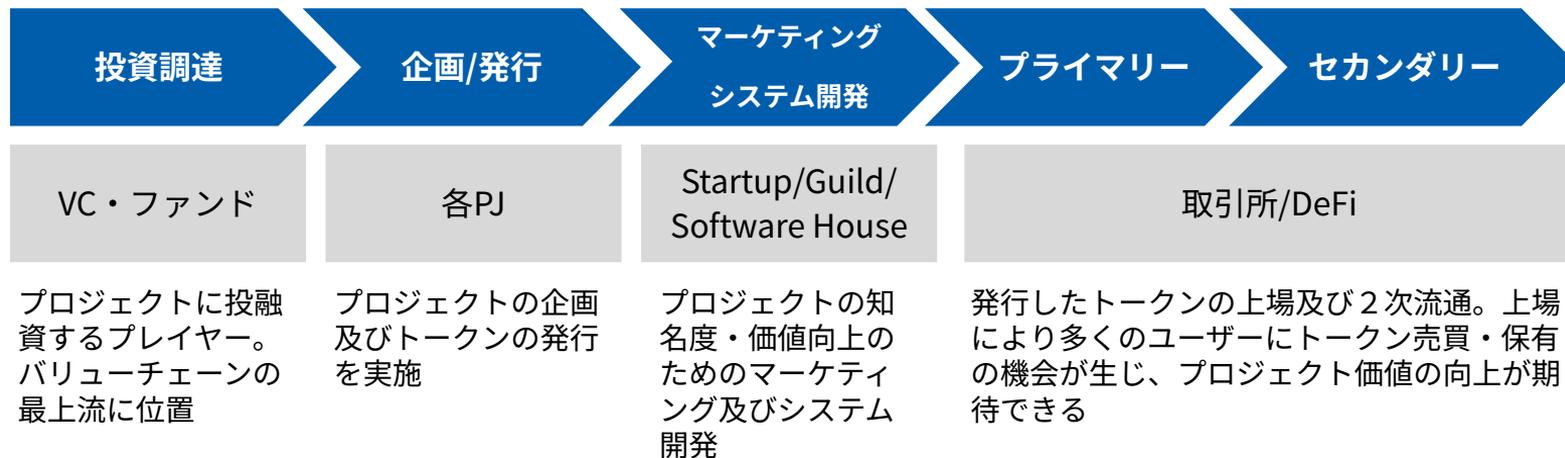
Turingum

“Gain control of yourself”

高収益と安定収益の双方を確保

- グループシナジーの活用
- トークンプロジェクトの拡大によるアップサイド
- 新規開発案件の獲得による収益安定化

Web3バリューチェーンにおける収益性の最大化を目指す。



トークンプロジェクトの拡大

課題

- 上昇トレンドの市場を受けて、トークン発行したい企業が増えている状況
- トークンプロジェクトを拡大するための人的リソースが不足



取組

- 大手企業向けWeb3事業コンサルティング・開発の新規開拓を強化
- トークン10により新たなプロジェクト組成支援を拡大

案件数×売上高の両軸を伸ばしていく。

案件数

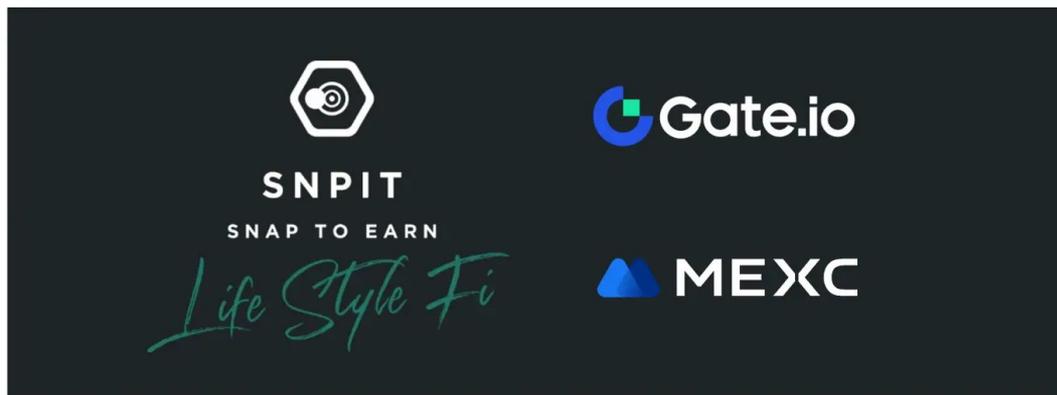
- プロジェクト件数を増やす。
 - 資金調達に課題を抱える企業の課題解決を狙う。
- **トークン10によりプロジェクト組成支援を強化する。**

売上高

- プロジェクトの売上を最大化する。
 - レベニューシェアによるチューリングガム売上を向上。
- **トークン価値向上のためのフレームワークを構築する。**

SNPITが好調に推移し、3Qは46.7Mの黒字着地

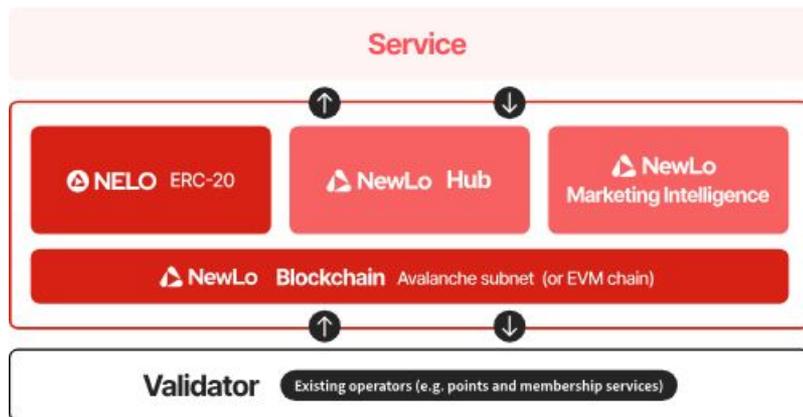
SNPIT Token上場



- SNPIT独自トークンである「SNPIT Token」が6月に海外取引所Gate.io、MEXCに上場。
- 上場後にトークン価値を向上する施策を続々と実施し、バリューアップに取り組む。
- 東京メトロの車内広告/ラッピング車両など積極的なマーケティングによるユーザー増加。

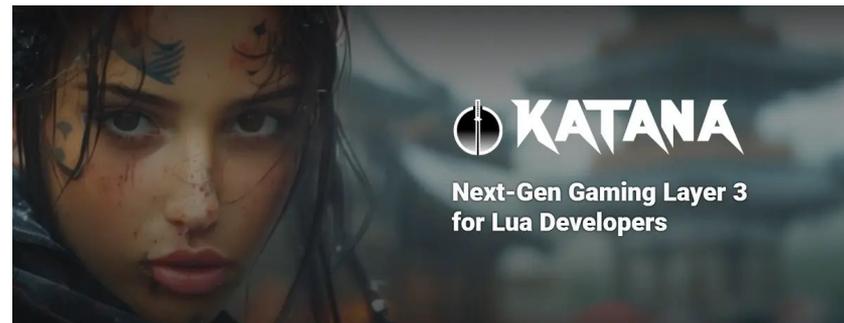
大型トークンプロジェクトへの参画

NewLo



ポイントをトークンへ転換する、あたらしい Web3ロイヤリティプログラム「NewLo」プロジェクトに**バリデータとして参画**

KATANA



ブロックチェーンゲーム開発に特化したレイヤー3「KATANA」で、トークン関連を担当する**戦略的パートナーとして参画**

様々な業界向けに10種類の新トークンを発行する「トークン10」構想。 パートナー企業様との連携により、Web3事業をプロデュース。



1. 10領域でパートナーを募集
 - a. 選定されたパートナー用にトークンを発行し、会計税務の論点をクリア
 - b. Turingumがフロントに立ち、トークンプロジェクトをスムーズに開始
2. トークンの取引所上場
 - a. クシムグループの暗号資産交換所『Zaif』を通してIEOに向けた審査サポート

Thank You